

平成 29 年度第 3 回白馬村図書館施設検討委員会議事録

日時 平成 29 年 11 月 17 日 (金)
午後 3 時 30 分から
場所 白馬中学校 図書室

- 1 開会 生涯学習スポーツ課 松沢宏和 係長
- 2 あいさつ 富山委員長、花井裕一郎氏
- 3 中学校図書館の運営の紹介
- 4 協議事項
 - (1) ワークショップ等開催の報告について
 - (2) 平成 30 年度以降のスケジュール案について
 - ・図書館長の公募
 - ・図書館基本構想、基本計画
 - ・施設検討委員会
 - (3) その他
- 4 閉会 生涯学習スポーツ課 松沢宏和 係長
- 5 出席者
検討委員 富山正明、小林英雄、太田史彦、宗川尚美、小川由美子、
長島律子、高橋英子
ファシリテーター 花井裕一郎
事務局 生涯学習スポーツ課長補佐、公民館主事

傍聴 伊藤まゆみ議員、中村敬さん、蓮井さん

白馬村図書館施設検討委員会（第3回）会議録

開催日時	平成29年11月17日（金）PM3:30～6:00
開催場所	白馬中学校 図書室
出席委員	富山正明、小林英雄、小川由美子、太田史彦、宗川尚美、長島律子、高橋英子
事務局	生涯学習スポーツ課長補佐兼生涯学習スポーツ係長、公民館主事、白馬村図書館司書、白馬中学校図書館司書
傍聴者	3名（伊藤まゆみ、中村敬、蓮井）

◆あいさつ 委員長

中学校ワークショップ後で中学生の頭の柔らかさで色々な話が出たが、我々も頭を柔らかく話をしていきたい。今回は中学校での会議であるので、学校図書館での話も聞いた上で進めていきたい。

◆白馬中学校 中学校司書

白馬中学校は217名、特別支援クラス含め9クラス。蔵書は12,764冊で図書標準より多く確保している。古い本は廃棄をして使いやすい図書館を目指したい。年間平均貸出数はひとり平均25.5冊。図書館管理システムは村とは違うものを使っている。

図書館教育の概要としては毎朝10分の朝読書、5月に1週間の読書週間、11月に2週間の読書旬間を行っている。ボランティアによる読み聞かせを年3回行っている。授業での利用としては国語科でのオリエンテーションなど。修学旅行、登山、郷土を知るなどの調べ学習などにも用いられている。タブレットを購入したので調べ学習に役立てている。

先生方のおすすめ本、図書委員のおすすめ本、図書館でクイズなどイベントも行っている。こういうイベントがあると貸出数が多くなる。人気な本としては、「君の臍臓が食べたい」「銭天堂シリーズ」など。

学校図書館は読書センターと学習情報センターの2つの役割がある。読書の支援ほか調べ学習に対する支援を行っている。その時は村の図書館とも連携を行っている。どんなに綺麗で本が多くてもそれは図書館ではなく、人がいないとダメなので、普段から人が来る様工夫している。図書館は昼休みで普段のメンバーから離れた空間になるので、居心地の良い環境づくりを目指している。

村の図書館に求めるものを書いてもらった。行きやすい場所、白馬三山が見

える場所、静かな環境など。学習スペースが充実しているところが求められている。中学生に人気のある本は村の図書館にはないことが多い。

今回図書館を見て頂いて意見や感想があれば参考にしたい。

緑の資料はオリエンテーションの時に配るもの。

花井 これ（緑の本型資料）は誰のアイデア？

学校司書 こういうものがある。中身は私が考えた。

委員長 放課後に来る人が多いのか？

学校司書 放課後は開館になっていないので、朝、昼休み、2時間目休みに来る。

昼休みはくつろぎにきているという感じ。

委員長 本を狙ってくる子もいる？

学校司書 狙ってくる子もいるし、ぐるぐる探している子もいる。

委員長 調べ学習では白馬村図書館とどれくらい連携しているのか

学校司書 白馬の山などを調べる時、観光局とかからパンフレットももらうが、詳しく知りたいときは図書館から本を借りている。

委員 （村の図書館に対し）学習・飲食スペースの要望も多いがなぜ？

学校司書 今は狭かったり、小学生がうるさかったりするから。

花井 こういうデータはすべての図書館であてはまる。特別な意見ではない。

係長 今回は村の図書館から司書の糸氏さんに来ていただいている。

糸氏 スペースが今1番村の図書館で困っている。学習スペースの確保、飲食スペースの確保に関して、来館者が1日40～90人となっている。午後は小学生がどっとくるので、ごった返して座る場所もなく立って宿題している子もいる。とても勉強できる環境ではないのが現状。職員は今3人いるが、常勤は2人。2人が休む時に臨時の方に入って頂いている。蔵書は5万冊、開架は2万4000冊。残りは書庫に詰めている。綺麗に立てて入らないので寝かせてなんとかやりくりしている状況。年間の受け入れ冊数は1963冊ほどあるが、購入は560冊ほどで残りは寄贈。寄贈がないとかなり少ないイメージ。2408人が図書カードを作った。児童が160人ほど。村民の26%くらいが利用している。先日大糸タイムスに載った広域での連携だが、実は以前から行っている。借りた本は借りた場所で返す必要がある。相互貸借で県内の図書館の本を取り寄せて貸すこともできる。カーリルが作っている信州ブックサーチというサイトで、本を県内の図書館から借りる事ができる。

設備面でも快適ではない。トイレも洋式トイレはあるが落ち着かない。ドアも低いので盗撮もされるかもしれない。子どもも多いのでいつか事

故がおきるかもしれない。子どもたちは子供たちで行く場所がないので図書館で過ごすのが心配。

委員 放課後児童クラブもあるが親の都合で図書館にいる。ご家庭の責任でと校長先生は言っていると思う。クラブ活動の関係であの場所にバスがくるので時間をつぶすためにいる。

糸氏 児童クラブは親が迎えに行く必要があるので、迎えにいけない子は図書館にいる。

委員 あれだけ子供がいるに関わらず落ち着いていると思う。

糸氏 慣れているのでなんとかすごしていると思う。

(委員 参観日の関係で途中退室)

委員 どういうもので本が届くのか

糸氏 図書館協会で提携していてクロネコヤマトで届くようになっている。書籍に関しては安い値段になっている。ただ、値上げで料金が代わるかもしれない。28年度は144件借りていて、27件ほど貸していたりする。京都から出土したりする。

委員長 費用負担は？

糸氏 県外に関しては相手もちで、県内では片道分の料金。村が負担しているので利用者は払わない。

花井 長野図書館協会で県立同士でやろうとしたが、お金もなく元に戻った。

委員長 学校図書館とはまだやっていない？

糸氏 もうやっていて、学校にも貸していて3か月単位とかで団体に貸したりする。

委員長 現状の話ということで、ありがとうございました。

委員長 引き続き事務局から、ワークショップ開催報告について

係長 文化祭における意見の募集を行った。(別紙参照)年齢別、性別ごとにわけてある。「いいね」は賛同の数です。高校の公営塾でもWSを行ったが参加者も少なかったのもまだまとめていない。午前中に行ったシニアクラブと行ったものも添付した。6人ほど来られ、花井さんからお話いただいた。中学生とのWSは検討委員会の始まる前に行った中学生のものは壁に貼ってある通りです。

委員長 一度中学生の自由な意見を見てみてください。

(10分間の自由時間)

委員長 大人も子供のような意見を出す人もいる。証拠として文化祭で書いてもらったものに同じ意見がある。空間としての図書館に期待している人もいる。本を増やしてほしいというのはベースとしてあるが、誰でも行きやすい場所を要望していることが多い。白馬は観光地なのでカフェも多いが、お金を払う必要があるので普通に入れる場はない。そのような図書館が求められる。

委員 12月にペンションをオープンするが、図書館とペンションのベースは同じものだと思った。白馬ならではのということを考えるが図書館は本だけでない。村民が建設に携わり、私たちが作ったということを考えることが大切。「100年後の白馬を考える会」は良いものだった。長期使える場を作りたいと思っている。

委員長 集まった中学一年生が我々と一緒に成長していくようになると良い。福智町のように学生と連携して取り組みたい。発想を見る限り、大人よりも子どもに意見を出してもらった方が良い意見が出る気がする。理想として思っていることは突拍子があるものでもなかった。

委員 図書館は本が多くあって借りる場所としか頭になかったが、話を聞くうちに頭も柔らかくなったと思う。建物があっても利用者がいない、というものを無くしたい。図書館行きのバスを用意してほしいという声もある。

委員 シニアクラブ、子連れのお母さん方の意見もあれば良いと思う。

花井 図書館に行く癖をつけさせる。お母さんに来てもらう癖をつけて子どもを連れてくる。

委員長 図書館に行くと言世界があるという事を知ってもらう。スマホで調べただけでは十分ではない。なるべく足を運んでもらうことが大事になる。交通機関も大切。図書館を核にする街づくりが必要になる。図書館基本構想というものがあるが、これは図書館協議委員会で話し合ったものをまとめた物になっている。これにどういう図書館を目指す、など書いてある。

係長 図書館基本計画は第2回検討委員会で資料を配った。基本構想は今までのもをまとめたもので正式なものとして出しているものではない。参考として掲載した。

委員長 図書館基本構想に掲載していることについて、理念も考えていきたい。白馬三山や山・スキーなどを集めたいなど、基本的なものは変わっていない。理念としてはどういう風にして人が来やすいかを考える必要がある。アメリカの図書館のように入口に警備員がいるのは入りにくい。気軽に入れるようなものを目指すのが良い。理想像とかは見えてくると思われる。一般の方からも同じような意見が出ると思うが、WSに出て、図書館を作りたいという気持ちにさせる。

委員 図書館という名だけでは固い。「本を作ろう」など、集まりやすいタイトルをつけた方が良い。楽しい感じで人を集めて、意見を出してもらうなどが良いと思った。

花井 小さいWSでそういうことはやったことがある。

委員長 多くの人に参加してもらって仕掛けづくりが大切。

花井 来てもらうだけではなく、行って説明するのが大事。WSをすとかお話を伺いたいとかで、訪問することが大切。若いお父さん（30代）は図書館に来ない。

委員 なかなか村が動いてくれないから自分たちで始めちゃおうという人もいる。

委員長 そういう人たちの場に赴くのも良いと思う。会議とかの合間で気軽に話を聞いてみるのが良い。

花井 読みたい雑誌がない～とか、意見を出してもらおう。

委員 フェイスブックで図書館の意見が出ているのは見たことがある。

委員長 今はまだ住民の気持ちの醸成が出来ていない。

委員 フェイスブックとかでページを作って色々な人を呼びかけるのが良い。図書館のフェイスブックは作れないのか。

花井 別府市は検討委員会の段階からフェイスブックを作って資料を掲載している

委員長 白馬村のフェイスブックは内容が固い。

委員 高校生とかにやらせてみると良いと思う。ダサイ方が良い。

委員長 今3年生の子たち（昨年2年生）は去年ワークショップに出ている、公営塾の子たちに作ってもらって、図書館作りに参加しているという風に考えさせるのが良いと思う。

委員 公営塾の子だけでなく、全校生徒を対象にした方が良い。

委員長 高校に入り込んで、高校生の中で盛り上げられると良い意見も出る。

委員 子供でも大人でもない中間あたりの子に声をかける。ビジュアル的にも花井さんの様な人が来た方が良い。高校生の味方のような。

係長 次回1月12日（金）に高校でワークショップをする予定。公営塾に行っている生徒以外を対象に聞いてみる予定。

「白馬に無料で居られる場所ができる」などで参加募集をかける。

授業が終わったあとにWSを行う予定でいる。

委員 国際科になってから講演会の数が非常に増えている。内容はどれも素晴らしいと思うが、学生にとっては座っている時間が多いと思われる。講演会というよりは皆で楽しくできるものが良い。

委員長 またかよ、と思われぬようにする。一方的に話を聞くというよりは話

をさせるという風にする。花井さんによる世界の図書館の紹介をして、固定概念を崩していく。この間の話だと「こたつ」がある等。子どもたちが参加できる、自由に意見をだしても良いという意識をもってもらおう。

花井 自分が言った意見が反映されていると子供たちは喜ぶ。高校、大学、就職で帰ってくる、の長期間でのスパンを考えて種まきをしていく。

委員長 100年後の話ということ。歴史をアーカイブしていくことが図書館の役割としては大きい。伝えていくために仕掛けを作るのも図書館。先につないでいくものを作る。

花井 今はできなくても将来できる価値は保存していく必要がある。未来に使える様意見をいっぱい出しておくことが大切。

係長 全村民対象のワークショップを1月13日(土)に開催予定でいる。団体の代表にDMを送って参加依頼も出す予定。

委員長 スキーシーズンが始まり仕事が忙しかったりする難しい時期だが、1回やってみると良い。来年度詰めていくためにやる。

委員 ケーブルテレビを利用するのは有効だと思う。

委員長 花井さんと図書館関係で有名な方で対談したらどうか。興味をひいてもらえるかもしれない。図書館の映像を流すのも良い

委員 息子は全然本を読まないが、図書館へ連れて行くと本を大量に借りてきた。同じ経験をした方も多く、それが図書館の魅力だと思う。

花井 1冊ではなく、3冊借りていくようなしくみ作りが日本の図書館では足りていない。白馬では大切にすべきだ。

委員長 綺麗に並べた本棚だけでなくテーマに絞った本棚を作っても良い。

糸氏 特集をすれば借りていく人はいる

委員長 目をひくような配置にすると借りていく人はいる。面出し(めんちん)をやっている図書館もある。本を取らなかった人が本を読むようになると思う。

委員 みんなが参加出来ればということで、ケーブルテレビの話が以前でた。1回出た話を再度あげる時には進展しているか教えてくれないと話が進まない。ケーブルテレビに入っていない人もいれば、フェイスブックを使えない人もいる。投げかけを色々な媒体でやってほしい。幼稚園の方、PTAの方の意見を出してもらいたい。図書館はピシッとしている場だと考えている。シニアのワークショップでお酒を飲める場所がほしい、とあるが今までの図書館からは考えられない。中学校でのwsではお話できるスペースがほしいというアイデアが出た。図書館は静かにする場所だと私は思っていた。そういうところを変えたアイデアの情報を流してほしい。

委員長 知ってもらえる機会を増やす必要がある。

委員 村民ワークショップの時間がお昼なので、お母さん世代か高齢者の年代層になると思われる。前もって意見の投げかけをしておいた方がよいと思う。

委員長 一つの意見ではあると思う。

係長 高校生のWSは17時から行う。花井さんが良ければそのあとでも良いかと思われる。村民向けのWSはお昼に行う。

委員 区の制度を知っていますか？

花井 はい、わかります

委員 区に話を投げかければすぐに響く。

委員長 昔からある区は結束力が高い。広い区は回覧板を取らないところもある。

花井 待つだけでなく、色々な団体におしかけていく必要がある

委員 厚かましくない程度に。最近では新聞をとってない人も増えている。行政区に加入してない人もいる。

委員 三日市場で、図書館の話をしたが興味ないと一蹴りされた。図書館がどういものかイメージできないので意見がないと言われた。

委員 私が聞くと、良いじゃんと言う人が多い。行くバスがない、など立ち話感覚でどんどん膨らんでいく。

委員長 呼びかけする段階で図書館を前面に押し出さない方が良いかもしれない。

花井 小布施の時でもそうだったが、押し問答が続いた時期があった。図書館というのではなく、何か違うものとして利用しましょうと議論していった。旧来図書館のイメージが強すぎる。

委員長 シニアクラブでのWSで、図書館は勉強する場だから関係ないと思っていたが、という話からスタートした。

花井 来た時と帰る時の表情が違っていた。

委員長 自由なものに分かってくると、空間として図書館をとらえてくる。そういうものだとアピールする必要がある。方向性としてどう分かってもらうか、意見を出してもらうか。ケーブルテレビも広報の1つ。

花井 今日の話は進展があったと思う。次々に企画を出していければと思う。

委員長 早い段階でフェイスブックとケーブルテレビの件は事業化してほしい。

委員 数字を先に言われると堅苦しい話になるので、本題のどんな図書館がほしいかを前面に押し出していった方が良い。

委員 建てるよ、本気だよなど。

委員長 やっと図書館が動き出した、みんなで作ろう図書館みたいに書くのが良い。今までにない画期的な図書館を目指して、のように大きく書いて

キャッチーにした方が良い。フェイスブックに載せるならお酒が並んでいる図書館やハンモックのある図書館の写真などインパクトの強い図書館を見せる。

委員 管轄では温度差はないのか。

係長 柔らかい感じのフェイスブックなどは予定している。12月の広報はくばに検討委員会やワークショップの件を掲載する予定でいる。ケーブルテレビは世界の図書館を放送として流す予定でいる。

委員長 データをもらって流した方が良い。色んな物を使って盛り上げていきましょう。今後の進め方についてはこんな感じでいきます。スケジュールについて事務局の方からお話をお願いします。

係長 会議事項2になります。30年度以降の案になるが、若干変更になっている部分がある。図書館長の募集を行って責任ある方に進めてもらうことを調整している。来年度準備をして、1か月くらい募集をして、決まったら図書館ができる前から業務を始めていただければと思う。有識者会議を30年度に入れた。今年度皆さんからの意見をまとめて、より専門的な立場で図書館建設を進めていく。ワークショップもやっていくが、1月のほか2、3回行うだろうが、今年度意見をしっかりまとめていく。その意見を受けて来年度有識者会議を進めていく。基本構想を元に基本計画の策定を進めていく予定でいる。先進地の視察を30年度に行う予定。建設が前回配ったものより1年遅くなっているが、33年・34年のどちらになるかは検討委員会を踏まえ、村の会議をした上で進めていく。

図書館の基本構想の策定を30年度、基本計画の策定を31年度で進める予定です。基本計画ができたら基本設計に入っていく。来年度以降はこのように進めていく予定でいる。

委員長 スケジュールに関して意見があれば

委員 検討委員会は報告を出して終わりということか

係長 年度ごとに区切っていくという話があったと思うが、専門家を入れて有識者会議として進めていくという意見がある。具体的な構想はこれから考えていく。検討委員の意見は年度としてまとめるが、どこかで今後用いていく。

花井 図書館自体の話は進んでいるが、複合施設として進めていくのが本当に良いのか等も有識者会議で検討していき、意見によっては再度検討委員会に戻ることもありうる。行ったり来たりになるかもしれないが、階段を上っていくような感じで進めていく。

委員長 ある程度方向性が決まっているが、より具体的に専門的な人たちをいれて話を進めていく。複合施設として進めていく話が教育委員会ではな

く、村の方で進んでいるという話が進んでいる。そこをしっかりと固めて進めていく。この検討委員会は村民レベルで、別な形で意見を言っていける場であり、棲み分けができていく。村の人達がどう使っていくかなので乖離していかないようにしたい。専門の人に意見を聞くのは、ある程度話が進んでからが望ましい。検討委員会の先がどう繋がっていくのかは未確認だが繋がっていくのは確実。

委員 最後までやりたい

委員長 検討内容を変えながら、棲み分けをしつつやっていきたい。

委員 小姑的な人がいないと、組織がなくなってしまう可能性があるので残しておく必要がある。

委員 最終的に建物の構成が決まって、村として決定するのは31年度の基本計画策定なのか？村が作って議会に提出するという感じか。

花井 絶対にこの流れでやるという必要はない。ある程度のお金もここで決まる。

委員長 基本計画の中で予算が出る。

委員 まだ本当に作るのかというざわざわ感がある。

委員長 あまり長引かせたくないという思いがある。行くなら行くで進めていく。計画については何回も変わる可能性はあるが。

花井 高知県土佐市の例から言うと、トップ会議集団と検討委員でいったりきたりということはあった。ただ、後ろには戻らない。

委員長 検討委員はにらみながら、有識者会議をチェック機能として見ていく。

花井 某市では意見が対立して話が立ち消えになった。前向きな議論ができるよう検討委員会は目を光らせる必要がある。

富山 下手をするとなんでもありの方向に行き、図書館が薄くなってしまふのが危惧される。図書館ありきでないとおかしな話になってしまう。

花井 本末転倒にならないようにする必要がある。

委員長 村民の理想とする図書館を作らせるために検討委員会が存在する。本質を見失わないように手綱を握っておく。

委員 検討委員会がなくなってしまうと意見も出せない。

花井 無くなることは無い。

委員長 なくすという事ではなく段階が変わったと考えるのが良い。

花井 先進事例として例をあげた。武蔵野図書館。10人しか入れない部屋、カップめんが食べられる部屋などターゲットを絞った部屋など新たな試みを行っている場所もある。伊那の図書館は地図ぶらりだけでなく、図書

館で地域マネーを作ったりしている。ライブラリーオブザイヤーもとった。伊那市の図書館長だった人が県立図書館の館長をやっている。旅行などに行く際にどんな図書館があるのか等はお知らせできるので聞いてください。

委員長 この間図書館総合展に行ってきたが、色々なものがあった。そういうものも勉強して情報交換していきたい。司書の方にも顔をだしてもらって意見を出して頂けると有難い。

花井 建築に入ってもワークショップをするのが普通になっている。イス1つ選ぶにしてもみんなで意見を言っている。

委員長 それぞれ勉強していいものができるようにお願いします。

委員 次回の検討委員会はいつ

委員長 13日のWSの後に絡めてやる予定。

委員長 お母さんが集まっている場などにも出向いて話を集約していくのも良いと考える。

委員 予算を考えたからの方が良いのではないか。

花井 大きい理想から狭めるのは簡単なので理想は大きい方が良い

委員 中学生は早く学習できるスペースがほしい、小学生は遊べる場所など最低限をつくるのが先決では。

花井 学習室が今ほしいのであれば、今空き家がないのか等村に聞くべき。意見は言っていないとだめ。

委員 ウイング内でもスペースを確保して図書館にできるのではないかと考えている。役所の人には空いているスペースがあるとか、子どもがスペースを欲しがっているとか分からないのか。

委員 今、駅前に空き店舗が多いので活用しないといけないという話が出ている。オーナーに話を聞いてみるとかすれば、図書館よりも早くスペースを確保できるかもしれない。

花井 検討委員でも材料になると思われる。図書館を作る前に白馬村で上がっている問題を報告書に書くなどする。

委員長 課題が出てくるのは良いこと。意見を吐き出してもらうことで行政を動かすことができる。図書館に関してはお母さん方の意見を出せる場所を作って、花井さんの日程が合えば行ってもらうなどもできる。

委員 ありがとうございます。